

第4号議案

名古屋市長選挙闘争方針（案）

不況下の93国民春闘と併行してたたかわれる名古屋市長選挙は、4月11日告示、25日投票の日程で確定しました。この市長選挙は、①大企業本位の経済と政治の転換をはかり、「人間らしく生き・働く」暮らしと職場をつくる春闘と固く結びついたたたかいであるとともに、②憲法違反のPKO法とカンボジア派兵の強行による平和憲法のかかってない危機、③佐川急便疑獄や皇民党事件に象徴される底無しの金権腐敗政治への国民的批判の広がり通常国会開会中の真っ只中に行われる大型首長選挙として、全国的に見てもきわめて重要な意味を持っています。

いま国民は、自民党政治に大きな不満と怒りを持っています。政府・自民党の不況対策は、あくまで大企業にあつく、労働者・国民にはいっそう犠牲が強いられています。また、臨調「行革」10年で医療も福祉も教育も次々と切り詰められ、その一方で社会保険料や税負担などは耐えがたいまでに重くのしかかり、庶民のマイホームは夢のまた夢となっています。「高齢者のため」との口実で消費税導入を強行しながら、年金・医療の引き続く改悪が高齢者を直撃しています。大企業本位の開発行政で環境破壊が進行し、とくに都心は人の住めるところでない状況になりつつあります。公害対策行政の後退で多くの公害患者が泣いています。子どもの問題も深刻です。

こうした情勢のもとで、国政を、市政を、国民本位に、住民本位にかえなければという気持ちは、多くの国民と市民の共通の思いとなっており、今度の市長選挙では必ず勝利することが求められています。

この7年間の西尾自民党市政は、①国の意向にそって臨調「行革」をどしどし進めた結果、かつてその充実がいわれた名古屋の福祉が、いま厚生省からも「福祉後進自治体」といわれるほどにひどくなっていること。②4年前には「公共料金に消費税の上乗せはしない」と約束しながら、一昨年前市バス・地下鉄の引き

上げを強行した事実が示すように、公約をも平気で破りすてる嘘つき市長であること。③中部財界・保守県政と固い「三角同盟」を結び、財界には大開きに開かれている市長室が、市民の前に「開かずの扉」になっているといわれるように市民不在の市政となっていること・・・など、まさに、自民党政治そのままの悪政といわなければなりません。④管理職ばかりを増やして上意下達の市政をしき、職員参加を拒絶していること、労働組合では「連合」だけに肩入れして愛労連を排除するなどの反民主的な姿勢は許せません。これらは、かつて名古屋が革新市政の時代には「憲法を暮らしにいかす市民本位の市政」をめざし、自民党の悪政から市民を守り、保守県政への牽制役を果たしたことを考えると雲泥の差であり、「再び革新市政を！」の声は、私たちの運動しだいで大きく広がる条件に満ちています。

前回の市長選挙に竹内氏を立てて44%に迫る得票を得た「革新市政の会」は、この情勢のもとで、今度こそ！の気迫にみちて再び立候補の決意をされた竹内平氏を先頭に、①金権腐敗・利権政治の一掃、②福祉や教育・環境を大切にす市民本位の市政、③財界・保守県政べったりの市政を改め、不況から中小業者や市民・労働者を守る市政、④市民参加・職員参加を徹底し、憲法を暮らしにいかす自治体の3点を基本に、「今度は必ず勝つ」意気込みでいま選挙準備に入っています。愛労連は、このたたかひの先頭に立ち、93国民春闘と市長選挙をともに勝利することで、216万市民・670万県民の期待に応えるローカルセンターの役割を立派に果たし、政治革新のうねりをこの愛知からまきおこすことが求められます。

【とりくみの基本】

すべての単産・単組、すべての地域労連（名古屋以外の地域労連も含めて）で、以下の事項についての運動を追求します。

- 1、西尾自民党市政の暴露ならびに名古屋市長選挙の意義・展望を学習・討議し、組合員や家族への情宣に努めます。とりわけ職場・地域での少人数での（網の目）学習会や要求討論とその集約をはかるなど、運動を職場・地域からおこ

します。また、このとりくみの上に、できる限り細かい単位で支持・推薦決議をあげて「革新市政の会」に集中します。

2、各単産・単組・地域労連に市長選挙闘争の担当責任者を配置し、「会」の団体・地域代表者会議に結集します。

3、組合員一人500円納入をメドに、自主的な任意カンパを積極的にすすめます。愛労連へは会費納入人員分を3月末までに納入します。

4、具体的なとりくみについては「革新市政の会」の方針を受け、次のようにとりくみます。

(1) 投票日までを展望して、次のように節を設けて運動をとりくみます。

- ①第1の節 3月9日・「怒りの216万市民革新市政実現1万人集会」まで
- ②第2の節 4月10日・告示日まで
- ③第3の節 投票日まで

(2) 春闘宣伝とあわせた計画的なビラ配布、街頭宣伝、宣伝カーによる宣伝行動を実施します。

(3) 100万人対話運動をすすめます。

この100万人対話運動は、職場・地域・自分の要求と政治を語りあい、その要求の実現のために、政治をかえる・名古屋市政をかえるということで、一人ひとりの力を結集する運動です。そのための運動は、職場・地域での小集会をはじめ、組合員の自主的・創造的な力を発揮してもらい、草の根から選挙勝利へむけて運動を発展させていくとりくみです。各単産・単組・地域労連は、支持拡大目標とあわせて「100万人対話」活動の目標を設定したとりくみをします。

(4) リーフ「政治を変えよう」などを使って組合員・家族・市民の要求の集約と支持拡大(一人5名以上)を目標とする運動をとりくみます。

(5) 「革新市政の会」や愛労連未加盟労働組合への、職場・地域からの積極的な働きかけ(共同の呼びかけ)をします。

(6) とりわけ重要な役割が期待される名古屋市内の単組・地域労連・職場は、各行政区ごとの「革新市政の会」に結集し、地域を基礎とした運動の先頭に立つようにします。

また、名古屋市以外の地域労連についても、名古屋市内の行政区を受け持ちます。

(7) 3月9日午後6時会場、名古屋市総合体育館・レインボーホールで開催される「怒りの216万民、革新市政実現1万人集会」の成功にむけて、各単産・単組・地域労連は参加目標(この「集会」への参加形態は、基本的には地域を基礎)を決めて積極的なとりくみをします。